

クヌギチップを用いた菌床シイタケ短期栽培の発生操作技術

林業研究部 きのことグループ

1. 研究の背景

これまで菌床シイタケ栽培の培地基材として、県内に豊富にあるクヌギを使用する研究を実施した結果、長期栽培生産者（培養日数120-150日）を中心に導入が進んできた。

しかし、短期栽培生産者（培養日数90-100日）は一般的な広葉樹と比較して初回発生が少ないこと、終盤の発生が多い特長を活かせないことから、クヌギチップの導入は試験的な使用に留まっていた。このような状況の中、県内でクヌギチップ及びびオガコを製造販売する民間企業が操業を開始したことから、短期栽培生産者の本格的な使用が期待できる状況になった。そこで、短期栽培生産者にクヌギチップを導入する際の基礎的栽培データの蓄積を行い、短期生産において

2. 研究成果の内容・普及のポイント

短期栽培：森XR1号の場合

- ①培地含水率が低いと初回発生が少なくなるので、60%を目安に調整する。
- ②培養期間が長いと初回発生は多発、小型化するので、22℃で90-100日間行う。
- ③袋カット直後に菌床表面を擦る処理は、発生数の減少になるので行わない。
- ④2回目の発生量を増やすには、休養期間中に散水（週5回、2時間/回）を行う。

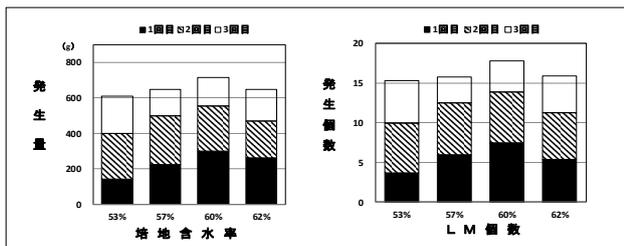


図1. 培地製造時の含水率の影響

表1. 休養中の散水条件がシイタケ発生に及ぼす影響

試験区	2回目発生		
	個数	LM個数	発生量
散水なし	3 ^{a,c}	2	72 ^a
週1回	7 ^{a,b,c}	3	175 ^{a,b}
週3回	10 ^{b,c}	3	202 ^b
週5回	15 ^b	3	238 ^b

異なるアルファベット間で5%水準の有意差あり

3. 期待される効果（14ポイント、MSゴシック太字）

- ・県産クヌギチップの利用増加
- ・短期栽培の生産安定とブランド力強化

4. 担当機関連絡先（14ポイント、MSゴシック太字）

林業研究部 きのことグループ
TEL：0974-22-4236
住所：豊後大野市三重町赤嶺2369



クヌギ菌床からの発生状況
(XR1号、90日培養、3回目)